

神戸で開かれた北陸中部、関西、中国、四国、九州、沖縄の電力7社とJパワー（電源開発）から約180人が参加した。大会は6月8、9の両日に開催。初日に団体戦、2日目は個人戦が行われ、熱戦を繰り広げることもバドミントンを通じて親交を深めた。

同大会は1989年の第1回から毎年開いていたが、2011年



ナカ北陸電力にそれぞれ競り勝った。決勝戦は四国電力が関電を下し、栄冠をつかんだ。

2日目は一般1部シングルスほか計12種目を行われ、各選手が日頃の練習成果を発揮するとともに、バドミントンを通じて親交も深めた。

高所作業車を働をきれいにした



北海道電力釧路支店（馬場雅嗣支店長）は

## 電力 大学生招き森づくり体験 環境保全大切さ学ぶ

中部電力環境・地域共生室（橋本当矢執行役員・室長）はこのほど、根の上高原（岐阜県）で愛知教育大学の学生を対象とした「森づくり体験」を実施した。同社による市民参加型の森林活動「森への招待状」の一環で、学生と教員計19人が参加。人工林の間伐やトレッキングを通して、自然や環境保全の大切さについて理解を深めた。

0岸壁街路灯の辺のごみ拾い、釧路市の有名なツツである整さまいばし）

## 電力会社の仕事解説 小学生が見学、職場体験

### 現場から @エネ教育

東北電力宮城支店（宮本保彦執行役員・支店長）はこのほど、小学生を対象にした施設見学会と職場体験会を開催した。送变电設備や配電業務について、社員が分かりやすく解説。参加した児童は見学や体験を通じて、電気が送られてく

る仕組みや安定供給に携わる仕事について理解を深めていた。

今回の取り組みは、同社の次世代支援プロジェクト「放課後ひろば」の一環。電気やエネルギーの学習を通じて、環境やエネルギー資源といった地球規模の問題を考えるきっかけにもらうことを目的としている。2017年度に国のエネルギー

ギー教育モデル校として選定されるなど、エネルギーや環境教育に力を入れている仙台市立南小泉小学校の6年生86人が参加した。児童が最初に訪れた仙台電力センター太白事業所では、南仙台変電所と特別高圧送電線が敷設されている地下洞道内を見学。普段何気なく使用している電気が、送られてく

る仕組みなどを学んだ。次に訪れた仙台南電力センターでは、配電部門の業務を体験。高所作業車に試乗するとともに、低圧電源車が稼働している様子を見学した。活線工具を使い、模擬配電線へのコネクタカバリの取り付けにも挑戦した。児童からは「とても高いところで作業して大変な仕事だと感じた」「活線工具が思ったより重くて難しい作業だった」といった感想が寄せられた。

講師役は中部電力グループの従業員とOBらが参加するNPO法人「水とみどりを愛する会」が担当した。参加者は間伐作業の意義や効果を学んだ上で作業を行った。

間伐に必要な知識・技能を持つ「ちゅうでんフォレストスター」の指導を受けた後、のこぎりを使った間伐や伐採

した木を切り「玉切り」にカットレッキン。その魅力を伝えるうえでインターが案内し、説明を受けながら植物の葉をびんなども学んだ。体験を終え

「玉切り」にカットレッキン。その魅力を伝えるうえでインターが案内し、説明を受けながら植物の葉をびんなども学んだ。体験を終え

## 地域・グループ

地下洞道内の送電設備を見学する児童

